

企業名：ヨロズ

---

レポート名：統合報告書 2021

---

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

自動車業界の大変革時代を乗り越え、二酸化炭素排出量の削減により地球温暖化の食い止めをすることを主とする社会貢献を第一義とする姿を目指している。また、たゆまぬ努力で顧客に信頼される経営を築き、自動車の部品の一部であるサスペンションの生産について他企業にはない唯一無二の開発力と技術力、安心安全で抜群の品質を持つ部品の供給をおこなうことで顧客のニーズに応え永続的に発展し続ける 100 年企業となることを目指している。加えて、経理的な面では固定費の削減だけでなく、積極的な投資からの成長機会の模索や投資と株主還元のバランスの最適化を行い、株主還元の実現をすることでステークホルダーの期待に応えることがこの会社の目指す姿であることが理解できた。

### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

上で述べたとおり、この企業はサスペンションの生産をおこなっており、その国内シェアはなかなか大きいものとなっている。また、生産されたサスペンションの送り先は日産やホンダなどの大手自動車生産会社ばかりである。また、この企業の海外売り上げ比率は 2020 年時点では 73.9%とシェアの半分をゆうに超えるものであり、送り先は Ford などの国内と同じく大手自動車会社となっている。つまり、必然的にこの企業が仮になくなった際の打撃は日本国内だけで収まるものではなくなるだろう。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

あるだろう。これを支える見えざる資産とは端的に述べると企業の社員一丸となって実現される努力であろう。臨機応変な社内組織のもとでフレックス勤務やリモート勤務の拡大などで人材育成を進めることで働きやすい職場環境を実現している。これらを前提に継続的な生産力、技術力の向上を行い続け、抜群の生産物の性能と仕入れやすい安価な価格帯の設定が可能となり国内だけでなく国外でもなお高いシェアを実現しているのだろう。また、この企業の価値を向上させている一因として積極的な SDGs への参画、つまり環境経営の実施をおこなっていることが挙げられるだろう。例えば、世界では 2050 年のカーボンニュートラル達成に向けた動きが加速化しているがこの企業はその年を 10 年前倒しした 2040 年でのカーボンニュートラルの実現を目標に掲げ、そのために工場用の電力に再生可能エネルギーを導入したり、二酸化炭素排出ゼロ電力の購入などをおこなっている。これらの環境への配慮も自動車生産企業には魅力的に映っているだろう。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

まず、私は大前提として自身の人的資本価値が向上するときそれは同時に企業の価値が向上する時であると考えているため、この企業の価値創造までのプロセスを考えた。その結果この企業でわたしは自身の人的資本の価値向上は可能であると感じた。まずアウトプットの前に業界をとりまく社会環境の把握を行い、そこから必要な経費を各資本ごとに算出を行う。この時同時に環境や性別への配慮も行っていた。これらにより例えば、この会社の女性管理職の比率は他企業と比べ高くなっている。この後にビジネスモデルの構築をおこなうのだが、その際には取り組むべき課題に対してしっかり優先順位をつけ対応していくことを念頭に置いていた。またもちろんセグメント比較もこの時にぬかりなく行っていた。この後に実際に製品製造を行う。製造の前に着実な成功のためのステップをふめていた。製造後はアウトプットをやはり各資本ごとに算出しそこからどれだけの社会へのかちそうぞうができたかの反省までを行っていた。このような時間をかけできた緻密な計画のもと企業をまわしていることをしり、自分の人的資本の価値向上が可能であると感じた。

#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

ほとんど改善余地を感じたところはないが、強いていうならば、表を使った際にその中に記載された情報の字が小さく読みづらい。もう少しスペースを取り、余裕を持って書く良いと思う。